

# ほろにが

平成31年4月15日  
全国卸売酒販組合中央会

## 「平成から令和へ」

東京支部  
神奈川県卸売酒販組合  
理事長 田島 義隆

神奈川県卸売酒販組合理事長の田島です。今回、私に声をかけていただきましたので、恐縮ですがお引き受けしました。

4月1日に新元号が「令和」と決まり発表されました。多くの国民の関心が集まっていた中、素晴らしい元号が決まったことをお祝い申し上げます。

5月1日より始まる「令和」に明るい未来を期待したいと思います。「平成」が今月までと思うと感慨深いものがあります。

いま報道を見ると海外でも日本の改元のコメントが書かれています。その中に、「令和」の解釈に、法令の令の意味を取り入れているものが多くあるようです。政府としては「よい」「めでたい」を強調して説明しています。平成29年6月よりの酒税法改正による、新取引基準を遵守したい私どもの組合が、法令に従い組合員同士が協調し和をもって日々の活動が行われる組合であるよう「令和」という時代を迎えたいと思います。

さて、大変長い間「ほろにが」が各委員の方により書かれてきました。そのなかで、組合員の皆様に期待されることが沢山ありました。

しかし、営業の現場では、相変わらず過剰な値引きや安売りの状況が改善されないものがあります。

私の感じですが、組合員の皆様への公正な取引の為のガイドライン、法令の遵守など、組合員の中での取り組みがほとんどだったように思います。私

ども卸はメーカーの製品を販売しているものですから、もう少しメーカーの協力をお願いすることを考えなければいけないのでは、と思っています。

酒の価格が自由になって以降、メーカーの特約店同士が顔を合わせる機会もなくなりました。景気が悪くなったこと、量販店の販売数量が多くなった等、理由はあるかもしれませんが。しかし今でも親しくお付き合いのあるメーカーはそれなりに、私どもに協力してくれています。

新しい時代に向け、メーカーとの良い関係、取り組みができることを期待しています。

私は昭和19年5月に生まれました。その時、私の家の二階に学生時代の月桂冠の故大倉敬一会長が、藤沢の日大の農学部で醸造の勉強のため、2年間下宿されていました。私の酒の業界との付き合いの始まりです。会社は明治40年代に田島合名会社とし、湘南藤沢の地で酒類卸売会社としてスタートしました。このころより酒類メーカーも発展がはじまりました。キリンビール、サントリーさん等とも大変濃いお付き合いが続きました。私は酒の商売はメーカーと協力し商品の開発、販売方法の企画等を行ってこそ、業界の発展につながると思ってきました。現在は機械による販売データの評価が中心です。しかし、人と人のお付き合いも大事にしていきたいと思います。

一部地域の特売品などの問題のある販売についてもっとメーカーを前面に出し、協力して状況が改善される方法を作ることができるよう願っています。

「令和」の時代を迎えますので、よろしくお願い致します。